

佐倉商工会議所 創立 25 周年記念事業 アレックス・カー氏 講演会「美しき日本を求めて」開催



アレックス・カー氏
米国メリーランド州生まれ。エール大学日本学部を卒業後、日本や英国の大学で学ぶ。日本の文化だけでなく中国、東南アジアの歴史、文化にも造詣が深い。1973年に徳島県東祖谷山村に江戸中期の民家「ちいおり」を購入。祖谷を中心にした「日本の田舎の保存、文化と自然の活性化」を目的に活動している。

平成29年3月28日、佐倉商工会議所創立25周年記念の特別事業として、東洋文化研究者でNPO法人籠庵（ちいおり）トラスト理事長のアレックス・カー氏をお招きして「美しき日本を求めて」を主題に講演会を開催しました。講演要旨は以下のとおりです。

＜過疎化による地方の衰退＞ 近年、「観光立国日本」を掲げ、観光産業に目が向けられるようになりました。日本には観光資産として価値ある神社仏閣、温泉、美しい自然が随所に存在しています。しかし、現状は過疎化が進み、シャッターを閉めた寂れた商店街や、建物が傷み倒壊寸前の家屋がみられます。過疎化現象は日本に限ったことではなく、世界中の先進国で同じような現象が起こっているのです。

＜景観対策が新たな課題＞ 日本では経済を論じる上で「美」「景観」という言葉は禁句でした。これまでの古いものを壊して新しくすることが経済発展に繋がる見方が強かったのです。しかし、高齢化が進み、観光に頼らなければならなくなると「美しさ」がキーワードとなり、逆に景観が経済発展の礎に不可欠なものになったのです。これには景観を守るための先端技術が必要です。例えば道路等の無電柱化事業や山中に立つ高圧鉄塔の整理、街なかの営業看板の配慮などです。

＜公共工事が景観を壊す＞ 緑豊かで美しい山河田園の風景のなかに、コンクリートで覆われて整備された斜面が多数ありますが、地域住民は気にも留めていないのか、各地で同様の公共工事が数多く行われているのです。緑の中に現代アートの如くコンクリートで埋め尽くされた異様な物体が現れています。日本の土木技術は世界に誇るべきレベルと言われますが、残念ながらその技術は強固で立派なものを作ることに焦点が当てられているように思います。

＜「何もない」風景を見に行く＞ 観光に注力するなかで陥るのが、集客を目標にしている点です。例えば世界遺産登録の古民家集落では入込客数の目標に囚われて、駐車場を増設して大型バスを受入れているが、人が来ても滞在時間は短く経済効果は予想を下回っています。丸一日滞在して、その文化に触れることが重要なのに、観光客は何を見に行くのでしょうか。有名な歴史的遺産ではなくても、民家の古い土壁など小さく些細なものに温かみがあるのです。そして、それをいかに残すかが重要だと考えます。日本には美しい自然がたくさん残っています。これらをいかに次の世代に残せるかが、私たちに課せられた課題です。 (歴博講堂にて講演)



アート・街・人がつながる わくわくのわ 6/3 6/4

初夏の風に身を任せ、散歩感覚でご来場してはいかがでしょう！

- まちなわ 佐倉市新町エリア 無料 (一部有料コンテンツあり)
- にわのわ 佐倉城址公園 入場料 300円



今年も城下町佐倉の魅力を市内外の方に伝えるイベント「まちなわ」と「にわのわ アート&クラフトフェア・チバ」が、開催されます。昨年は2日間で15,000人以上が来場する人気イベントへと成長しました。アート・クラフト・地域に密着した食・産業・文化などを柱とした、広い世代の方に楽しんでもらえる催しです。

江戸・明治期からの面影を忍ばせる佐倉新町エリア、四季折々の美しい自然を楽しめる市民の憩いの場である佐倉城址公園で楽しい時間をお過ごしください。

お問い合わせ まちなわ実行委員会 043-310-7595 (おもてなしラボ内 10:00-19:00)
にわのわアート&クラフトフェア・チバ実行委員会 047-489-1460

CROSS POINT は 私達がつくっています！！



誌面に関する忌憚のないご意見、ご提案、ご要望をお聞かせください。より魅力ある会報誌に育てていきたいと努めて参ります。

広報委員会

- | | |
|------------|-------------|
| 委員長 井野口綾子 | 委員 長谷川智之 |
| 副委員長 金子 恭子 | 担当副会頭 佐藤 伸五 |
| 副委員長 本橋 実 | 専務理事 角田 和弘 |
| 委員 岩渕 明弘 | 編集長 御園生貴一 |
| 委員 吉原 健一 | 編集員 澤越 秀美 |
| 委員 加藤 毅 | 編集員 稲葉 知子 |